総合教育センターだより

街路樹

発行第１００号
平成２８年　２月２５日（木）
いわき市総合教育センター
いわき市平字堂根町１－４
０２４６（２２）３７０５

「街路樹」100号を振り返って

「街路樹」の第1号が発行されたのは、平成17年6月13日でした。

発行に向けての趣旨は、『現在いわき市が抱えている課題についての情報やその解決のための方法をお知らせしたり、各種研修会に参加した先生方から寄せられた「感想」や「意見」について載せたりし、研修内容の改善に資するようにしていきたい（抜粋第1号より）』とあります。

「街路樹」の標題は、総合教育センターから見える風景を表したもので、「厳しい冬を乗り越えて新芽を出したときの美しさと初夏の頃の青々とした逞しさを見せる木々をイメージしながら、子どもの教育についてもかくありたいものと感じて命名しました。（第1号より）」

このようなことから、今回第100号を発行するにあたり、原点である第1号に立ち戻って、各学校において有効に活用が図られるように工夫して参りたいと考えております。

これまでを振り返ると、「学力向上」について掲載することが多くありました。その内容を少し詳しく分類しますと、「研修に関する内容について」が23%、「授業に関する内容について」は19%、「学習指導に関する内容について」は9%、「学力実態調査に関する内容について」は7%となっており、その他には、講座紹介や生徒指導などが挙げられました。つまり、研修や授業に関する内容が主になっていることが分かります。学校や教員が望む効果的な研修の在り方や、授業力の向上が喫緊の課題であることが反映されているのです。

果たして、「街路樹」はそれらの課題に応えることができているのでしょうか。今後も「街路樹」が皆様の課題に応えられるよう、「街路樹は教育現場に寄り添っているか」という視点を忘れずに継続していけたらと願っております。

SST（ソーシャルスキルトレーニング）

特別支援教育

「なぜ今、ＳＳＴなのか。」と思う先生方もいらっしゃると思います。

ＳＳＴとは、認知行動療法の一つで、要約すると「対人行動の障がいやつまずきをもつ人に対して、必要な社会的スキルを積極的に学習させながら、それらの障がいやつまずきを改善しようとするトレーニング」と解釈できます。しかし、発達障がいをもつ児童・生徒ばかりでなく、今の子どもたちは、家庭や地域とのつながり、集団での遊びをとおしていつの間にか身に付くであろう「ソーシャルスキル」を獲得できない現状があるといわれています。学級で見せる子どもたちの気になる行動の原因が、生育環境や体験・経験不足からくるものなのか、発達障がいからなのか判断することが難しいケースが多くあります。ＳＳＴは、プログラム化された一連のトレーニングにより、児童・生徒に「成功体験・承認体験」を味わわせ、自尊心や自己肯定感をもたせることを目的としています。

そのためには、先生方がＳＳＴの指導技術を理解することです。価値付け（褒め方・認め方）に対しての捉え方を違った枠組みで捉えること（リフレーミング）ができ、より一貫性をもった子どもたちへの支援ができると考えます。また、このＳＳＴの概念や技術を普段の授業の中で活用できたら、子どもたちの学習に対する意欲や意識を変容させるきっかけになると予想されます。

現在本市では、こどもみらい部が中心となり、「いわき市発達支援システム」の構築を進めています。その事業の一つとして、子育てサポートセンターが担当しているＰＴ（ペアレントトレーニング）とＳＳＴの支援技術の活用を図ろうとしています。SSTにおいては、来年度の本センター研修会の中に組み込む計画に至っています。

興味のある方は是非ご参加ください。

お陰様で、街路樹は100号を迎えることができました。引き続きよろしくお願いいたします。

教育相談を振り返って
～街路樹100号記念に寄せて～

教育センター開所時は、「子ども健康教育相談」と「すこやか教育相談」となっていましたが、平成２５年度に一体化されました。

センター開所時は、子ども健康教育相談件数は、数百件に留まっていて、２人体制でも十分機能していましたが、平成２２年度から千件を超えるようになり、相談員の対応が難しくなりました。そこで、子ども健康教育相談員とすこやか教育相談員との連携・一体化ができるように組織が改められました。

相談数が多くなった背景には、センターの機能としての教育相談について市内の学校・市民に周知されたことが考えられます。

今後も、初刊街路樹に寄せる芽吹きの姿を子どもの成長に重ねながら、子どものもっているよさを生かし、成長していく姿を想像して、教育相談にあたっていきたいと考えています。